

本資料記載の予算額は市議会に提案している額であり、議決後に確定するものです。

資料5

温海地域振興計画・温海地域まちづくり未来事業計画

計画概要



◆ 温海地域振興計画・地域まちづくり未来事業計画 概要 ◆

現状と課題

高い品質の農林水産資源

特色ある在来作物

各地に伝わる
伝統・文化・歴史資源

高い集落自治機能

あつみ温泉

NPO等地域活動団体

豊かな自然環境

地理的
地勢的
条件

地域の9割が
山林

人口減少
少子化
高齢化

負のスパイラル

農業の規模拡大が困難

若者が働く場の不足

地域の実情に応じた
移動手段が不足

地域コミュニティ基盤の脆弱化

商店・医療等
生活サービス機能低下

介護人口の増加

土砂災害・津波等の
災害リスクが高い

地域の活性化

地域を支える人口

地域を支える経済

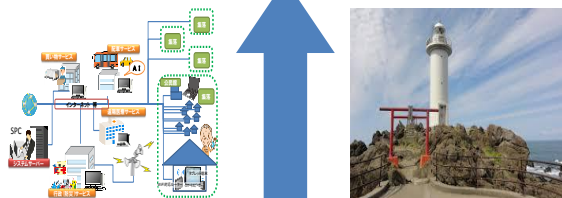
地域を支える環境

地域を支えるブランド・プライド



重点的課題・地域振興の方向

- ◆ 「日沿道を地域の活力につなげる」
(地域資源を活かした産業振興)
- ◆ 「住み続けられる地域環境の形成」
(地理的条件を踏まえた人口減少対策)
- ◆ 「特色ある集落自治機能の維持と
地域活動団体の振興」



外部環境の変化

日本海沿岸東北自動車道

ICT*の進展

関係人口の活用

新たな消費行動

地域振興の6本の柱

基本方針(1) あつみ温泉の魅力の向上と賑わいの創出

- ① あつみ温泉街の景観整備
 - ② あつみ温泉街の賑わいづくり
 - ③ 魅力ある温泉観光地に向けた
中長期戦略の検討
- あつみ温泉バラ園整備事業
 - 温泉街景観づくり事業
 - 朝市広場環境整備事業
 - あつみ温泉集客イベント実施事業
 - あつみフードPR事業
 - 魅力ある店舗づくり事業
 - 温泉街フラワー整備事業
 - あつみ温泉観光戦略策定事業

基本方針(2) 日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化

- ① 新「道の駅」を活用した地域振興
 - ② 既存「道の駅」の有効活用に向けた検討と施設整備
 - ③ 鼠ヶ関地内の賑わいづくり
- 新「道の駅」関連人材育成事業
 - 道の駅「あつみ」しゃりん整備事業
 - はなさき路の賑わいづくり事業

基本方針(3) 自然・歴史・文化を活かした交流人口・関係人口の拡大

- ① 交流人口の拡大による地域活性化
 - ② 関係人口拡大の仕組みづくり
- あつみ体験旅行推進事業
 - 地域支援ネットワーク事業
 - 関川地区活性化計画推進事業

基本方針(4) 農林水産資源のブランド化

- ① 温海地域の食文化継承による
地域振興
 - ② 温海地域高齢農業者の
生きがいづくり
 - ③ 地域資源を活用した
農村集落の活性化
- 糸の文化で新たな価値創造プロジェクト
 - しなの花活用プロジェクト事業
 - 温海地域在来作物振興事業
 - 温海地域小ロット農産物集荷システム整備事業
 - 鳥獣被害防止対策モデル事業
 - 産直組織活動基盤強化事業

基本方針(5) 次代を見据えた自治機能とコミュニティ拠点の機能強化

- ① 時代に即した情報伝達手段の構築
 - ② 地域コミュニティの基盤強化
- ICTを活用した課題解決研究事業
 - 地域コミュニティ基盤強化戦略事業

基本方針(6) 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

- ① 資源を活かした地域活力の創造
 - ② 地域に即した交通手段の確保
 - ③ 次代を担う人材の育成
 - ④ 多様な協働による
克雪・利雪・親雪の推進
 - ⑤ 高齢者を地域で支えあう環境づくり
- 温海地域遊休資産等利活用に向けた市場調査事業
 - 温海地域公共交通網形成事業
 - 温海地域高等学校等生徒通学費支援事業

◆ 温海地域まちづくり未来事業計画 個別事業一覧① ◆

No.	事業名	事業趣旨・内容	2019年度 当初予算額(案)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	備考
§ 1. あつみ温泉の魅力の向上と賑わい創出										
1	あつみ温泉ばら園整備事業	高齢者や幼児、障害者など幅広い世代が楽しめ、観光客や市民の憩いの場となるような公園へのリニューアル（バリアフリー化等）を図る。	8,000千円	基本計画	実施設計	改修工事				
2	温泉街景観づくり事業	温泉街の桜並木の更新や街路灯のLED化を通して魅力ある温泉街を創出する。	9,900千円	桜の植替え・道路復旧			街路等のLED化			一部 団体等への補助
3	朝市広場環境整備事業	滞留空間となる足湯等の整備や既存店舗スペースの改修を支援する。	—		調査 計画検討	足湯等の 整備	店舗改修支援			団体等への補助
4	あつみ温泉 集客イベント実施事業	あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」開催支援の継続と、2021年の「あつみ温泉開湯1200年」、2022年の「あつみ温泉酒井藩公の湯役所設置400年」記念事業を支援する。	1,800千円			開湯1200年 湯役所設置 400年	集客イベント、記念事業開催支援			団体等への補助
5	あつみフードPR事業	朝市広場を活用した賑わいイベント「朝市広場DEひるいち」と、温海地域の飲食店や店舗の自慢の一品及び農林水産関係加工品等をPRする「あつみ食べ物自慢フェス(仮称)」の開催を支援する。	150千円	ひるいち開催支援		あつみ食べ物自慢フェス(仮)開催支援				団体等への補助
6	魅力ある店舗づくり事業	温泉街への新規出店者及び既存店舗・商店経営者に対し、賃借料や改修費の一部を支援する。	—		調査 制度設計	活用支援				団体等への補助
7	温泉街フラワー整備事業	温泉街のおもてなし表現のため、沿道の花壇・花鉢等にバラを中心とした花の植栽を支援する。	—			花の植栽支援				団体等への補助
8	あつみ温泉観光戦略策定事業	ワークショップの開催や専門家等からの助言、実践指導等により、あつみ温泉の観光戦略づくりを支援する。	500千円		検討会議等の開催		計画内容の見直し			
§ 2. 日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化										
9	新「道の駅」運営関連育成事業	地域資源活用などによる地域経営のノウハウ会得のための人材育成を支援する。	—		施設運営の評価分析 職員の資質向上に 向けた研修実施		外部派遣研修			
10	道の駅「あつみ」しゃりん 整備事業	道の駅「あつみ」しゃりんのあり方検討に向け検討委員会(仮称)を開催する。併せて、日沿道開通後のしゃりんの有効活用に向けた施設整備を支援する。	—				改修計画・改修工事 ※日沿道関連事業進捗に合わせて実施			団体等への補助
11	はなさき路の賑わいづくり事業	「恋する灯台」をはじめ、みなとオアシスの構成施設となっている弁天島周辺エリアを活用した集客対策と、有識者等を交えたワークショップを開催し鼠ヶ関に「人」を誘導する仕組みづくりや観光地としての魅力づくりを進める。	200千円		観光戦略づくり検討		施設整備(案内看板・便所)		整備計画・整備工事	
§ 3. 自然・歴史・文化を活かした交流人口、関係人口の拡大										
12	あつみ体験旅行推進事業	豊富な地域資源を活かした体験型観光を推進するための活動を支援するとともに、民泊(農泊)受入れ者の施設改修を支援する。	2,677千円	活動団体を補完的に支援			農泊施設改修支援			団体及び個人への補助
13	温海地域支援ネットワーク 推進事業	地域を離れた人材や地域に想いを寄せる人材との交流ツールとなるようなプラットフォームを構築し、新たな「地域づくりの担い手」となる関係人材の受け入れを進める。	377千円	調査 研究	関係団体意見交換 プラットフォーム構築					
14	関川地区活性化計画推進事業	関川地区活性化計画の目標(交流人口の拡大、しな織の売上げ)達成のため、関川地域活性化イベント(田舎のうまいもん食堂)の開催を支援する。	300千円	関川活性化イベント開催支援						団体等への補助

◆ 温海地域まちづくり未来事業計画 個別事業一覧② ◆

No.	事業名	事業趣旨・内容	2019年度 当初予算額(案)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	備考
§ 4. 農林水産資源のブランド化										
15	糸の文化で新たな価値 創造プロジェクト	鶴岡市が有する「古代(しな糸)」「近代(シルク)」「現代未来(人工糸)」の糸のコラボレーションによる新たな商品開発を支援する。	1,000千円		シルク等との製品開発					団体等への補助
16	しなの花活用プロジェクト事業	しなの花を活用した商品の販売支援(販促ツール作成補助)や慶應先端研等との連携による新商品の研究開発を支援する。	100千円		販促支援	しなの花・実・木を活用した商品開発支援				団体等への補助
17	温海地域在来作物振興事業	「焼畑あつみかぶ」「越沢三角そば」などの在来作物を活用した地域振興に係る取り組みを支援する。	1,350千円		タイアップ事業でのPR・販促グッズ作成	GIマーク製作支援	越沢三角そば文化継承に対する支援			団体等への補助
18	温海地域小ロット農産物 集荷システム整備事業	農家所得の向上と高齢農家の生きがいを図るため、道の駅で実施している地域農産物の集荷体制を強化する。併せて、森の産直カーの再配置を支援する。	1,073千円		集荷にかかる人件費支援	森の産直カー整備				団体等への補助
19	鳥獣被害防止対策モデル事業	忌避作物栽培圃場と一般圃場における猿被害軽減比較を調査検証するとともに、忌避作物の栽培を支援する。	471千円		効果の調査・研究	忌避作物の種子等購入の一部助成				法人、任意組織等への補助
20	産直組織活動基盤強化事業	複数ある産直組織の一本化を検討する協議会を設立し、その活動を支援する。	101千円		協議会設立	検討会議・研修会の開催				団体等への補助
§ 5. 次代を見据えた自治会機能とコミュニティ機能の強化										
21	ICTを活用した 課題解決研究事業	各自治会の有線放送設備が老朽化や、人口減少、高齢化等を踏まえ、地域課題解決手法として、ICTの活用を検討し、生活支援サービスも含めた新たな情報伝達システムの調査研究を行う。	337千円		調査・研究、地域協議	計画策定・モデル地区選定	システムの構築	運用		
22	地域コミュニティ基盤 強化戦略事業	主要な広域的利用施設について、活用手法等の見直しを図りつつ必要な改修を年次的に行う。また、災害時の避難所として利用される施設について、施設管理者と連携のうえ機能性向上を目指す。	-		活用手法の検討	長寿命化計画策定	改修工事			一部施設管理者への補助
§ 6. 海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備										
23	遊休資産等利活用に向けた 市場調査事業	遊休資産である廃校等の活用について、市場性の有無や事業スキームを、対話により検討を行い施設の有効活用につなげる。	399千円		地域との協議	調査・研究	事業者の公募	遊休資産の有効活用		
24	温海地域公共交通網形成事業	路線バス運行の廃止や縮小など地域公共交通網の現状を踏まえ、新たな住民の「足」の確保を図るため、地域住民と対話を重ねながら、将来に向け、より最適な公共交通網形成を目指す。	5,300千円		計画策定	事業化・実施				
25	高等学校等生徒通学費支援事業	温海地域は、地理的要因により高校生の通学費負担が大きい。通学に要する費用の一部に対し支援を行い、定住促進を図る。 ※ 過疎地域である温海、朝日両地域においてモデル的に実施	6,916千円		公共交通機関を利用して通学する高校生等世帯への支援					個人への補助

§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

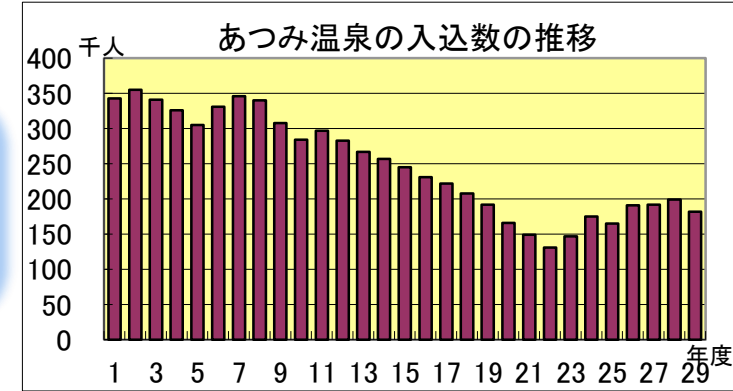
現状

温泉入込数の減少(H2 355千人 ⇒ H29 190千人)

公共空間の老朽化(H14～温泉街のハード整備)

旅館・商店の廃業(旅館H19 14軒 ⇒ H29 7軒)

朝市の衰退(H11 22店舗 ⇒ H29 7店舗)、中長期の将来展望の検討



連携

あつみ観光協会、温海温泉旅館組合、温海温泉源泉有限会社、出羽商工会温海支部湯温海地区、温海温泉自治会、まちづくりチームYUKAI、あつみ温泉魅力づくり推進委員会、鶴岡市

温泉街の魅力UP(ハード) ～来訪動機の醸成～

- ・あつみ温泉バラ園整備事業
 - ▷温泉街観光拠点施設としてのリニューアル整備(一部バリアフリー化など)
- ・温泉街景観づくり事業
 - ▷桜並木の植替え
 - ▷休憩施設や照明設備、足湯の改修
 - ▷街路灯(モール灯)のLED化
 - ▷フラワー整備(花壇・花鉢)
- ・朝市広場環境整備事業(2020～)
 - ▷滞留拠点となる足湯などの整備
 - ▷施設改修の支援(給排水、電気、防火対策など)

賑わいの創出(ソフト) ～交流人口の拡大～

- ・あつみ温泉集客イベント実施事業
 - ▷「せせらぎの能」の開催支援
 - ▷開湯1200年・酒井家入部400年記念イベントの開催支援
- ・あつみフードPR事業
 - ▷あつみ食べ物自慢フェスの開催支援
 - ▷朝市でひるいちの開催支援など
- ・魅力ある店舗づくり事業(2020～)
 - ▷新規出店者及び既存店舗の改修などの支援

中長期戦略の検討 ～あつみ温泉の将来展望～

- ・あつみ温泉観光戦略策定事業
 - ▷旅館青年部の活動支援(休憩ベンチの設置、花鉢の設置、旅館・店舗のしつらえ、浴衣プロジェクトなど)
 - ▷あつみ温泉の中長期的戦略の検討支援(アドバイス、コンサルティング、マーケティングなど)
- ※2019(H31)年度中に国民保養温泉地の指定を目指している。

目標:入込客数[2017(H29)年]190千人→[2039年]250千人

§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

◆ あつみ温泉バラ園整備事業 ◆

現状・課題

- 施設の老朽化（昭和38年開園）
- 神社境内地に位置し、傾斜がきつい
- 熊野神社と土地の賃貸借契約の再契約が必要
- 施設の魅力向上のための改修
- 指定管理者制度の活用 など



事業目的

- 温泉街の観光拠点としての整備（来訪目的となる公園）
- 子供から高齢者まで幅広い世代が楽しめる、人にやさしい公園へのリニューアル（一部バリアフリー化など）
- 年間を通して魅力ある空間、場所（ビュースポット）の整備

事業内容

フェンス及び危険箇所の修繕や段差の解消、公園内への進入路の整備など

- 2018(H30)年度
現地測量・基本計画策定(ワークショップの開催)
- 2019(H31) **実施設計**
- 2020 **改修工事**



事業効果

- 温泉観光地の魅力の向上
- 来園者の増加及び温泉街の賑わい創出
- 旅館や商店、飲食店への経済波及効果
- 民間目線での誘客事業の実施（指定管理者制度の活用）

UP

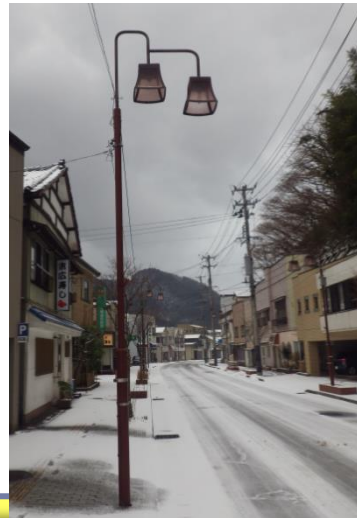
温泉街の魅力
観光客
店舗等の売上

§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

◆ 温泉街景観づくり事業 ◆

現状・課題

- 旅館の減少（10年間で5軒廃業）
- 朝市の衰退（H11 22店 ⇒ H29 7店）
- 桜並木の老木化（樹齢60年以上）
- 街路灯の交換の必要（水銀灯⇒LED照明）
- 電気料金の増高



温泉街への観光客の増加
桜並木の景観維持
明るくて楽しい夜の温泉街



桜の植替え
街路灯のLED化

安全で安心な温泉街
将来を見据えた桜並木

事業目的

- 老木化した桜の木を植え替え、桜並木の景観を維持する
- 温泉街の街路灯をLED化し、温泉街の賑わいをつくる

事業内容

- 桜の植え替え【継続】
2019(H31)～2023年度 桜の植替え及び道路復旧
(2019(H31)年度：7,200千円)
- 温泉街中心部（観光エリア）の街路灯LED化【新規】
2019(H31)～2021年度 各年40灯 合計120
(2019(H31)年度：2,700千円)

事業効果

- 温泉街の魅力アップ
- 明るく安全な夜の景観
- 温暖化の防止
- 電気料の負担軽減

§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

◆ あつみ温泉集客イベント実施事業 ◆

現状・課題

- 旅館の減少（10年間で5軒廃業による減少）
- 朝市の衰退（H11 22軒 ⇒ H29 7軒）
- 空き店舗の増加
- 人口減少と高齢化



これまでの取組

- 「せせらぎの能」開催による知名度のアップ
- 他地域の伝統芸能を取り入れ地域間の連帯強化



事業内容

- 【継続事業】
 - あつみ温泉野外能楽「せせらぎの能」
2019(H31)年度：1,800千円
- 【新規事業】 2020年度～
記念イベント（定額補助）
 - あつみ温泉「開湯1200年」
 - 「酒井藩の湯役所設置400年」



温泉街への観光客の増加
温泉街の賑わい創出
地域連帯感の醸成



能楽を活用したイベント開催
話題性のあるイベント開催

地域経済への波及効果
及び地域活性化

事業効果

- 県内外であつみ温泉の知名度アップ
- 来訪者や宿泊客の増加
- 地域経済への波及効果
- 地域の連帯感が生まれ地域が活性化



§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

◆ あつみフードPR事業 ◆

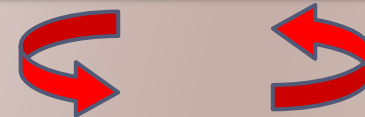
現状・課題



- 朝市出店舗数の減少 (22店(H11)⇒7店(H29))
- 朝市広場の有効活用
- 温泉街におけるイベント時の駐車場不足
- 多種多様な食材、食文化を活かしきれていない



温泉街への観光客の増加
温泉街の賑わいの創出



新たな観光資源の創出
地元商店の活性化
新規出店の創出

新たな食(メニュー)の開発
新たな魅力の発信

事業目的

- あつみ温泉朝市広場を有効活用した賑わいの創出
- あつみの食(フード)を広くPR
- 「あつみ食べ物自慢フェス(仮)」の開催

事業内容

「ユネスコ食文化創造都市」

【2019(H31)年度】

<あつみ温泉朝市広場活性化事業補助金 100千円> 【継続事業】
 <朝市広場活性化検討委員会 講師謝礼、消耗品、材料費 50千円> 【新規事業】

【2020~2022年度】

「あつみ食べ物自慢フェス(仮称)」の開催

• 「あつみ温泉ばら園まつり」と同時開催で相乗効果

• 美味しい食べ物収集販売PR ⇒ 温泉街の周遊

事業効果

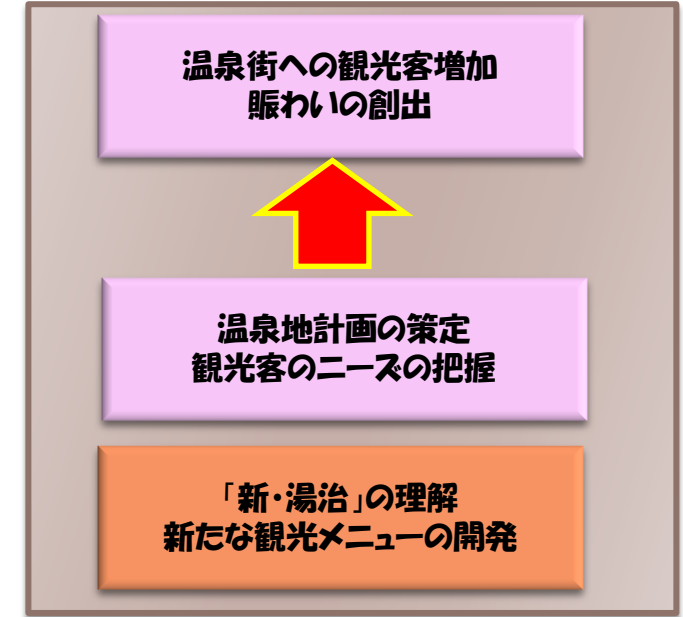
- 朝市広場の賑わい創出による観光客の増加
- 朝市への出店者の増加
- 「あつみ食べ物自慢フェス(仮)」の定着
- リピーターや口コミの増加
- 「ユネスコ食文化創造都市」の理解の浸透

§ 1.あつみ温泉の魅力向上と賑わいの創出

◆ あつみ温泉観光戦略策定事業 ◆

現状・課題

- ・ 旅行形態の変化に対応不足
- ・ 中長期的な温泉地域全体計画がない
- ・ 近年増加傾向にある外国人観光客に対応不足
- ・ 環境省が提唱する「新・湯治」の理解不足



事業目的

- ・ 観光客の年齢層、性別、目的別などのマーケティングにおける現状分析
- ・ ターゲットの明確化による将来計画の検討
- ・ 外国人客のニーズに的確に対応した施策の策定
- ・ 「新・湯治」の理解を深め温泉の新たな活用策の掘り起し



事業効果

- ・ 観光客のニーズに対する的確な対応
- ・ ターゲットの明確化による計画の実践
- ・ 外国人観光客の増加
- ・ あつみ温泉を拠点とした長期滞在
- ・ 「新・湯治」の新たな観光メニュー開発

事業内容

2019(H31)年度～2021年度

【2019(H31)年度】

- ・ ワークショップ(温泉街魅力づくり、観光戦略策定に向けた活動) : 200千円
- ・ マーケティングにおける現状分析研修 : 100千円
- ・ セミナー等(「新・湯治」の理解のための研修) : 200千円

§ 2. 日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化

課題

- ・鼠ヶ関IC(仮称)周辺の有効活用
- ・温海地域の農林水産物を活用した地域振興
- ・みなとオアシス周辺(マリンパーク、弁天島、恋する灯台)の賑わいの創出

環境の変化

- ・日沿道「朝日まほろばIC～あつみ温泉IC」が平成25年度に「朝日温海道路」として事業化
- ・鼠ヶ関IC(仮称)周辺の土地利用基本計画策定(H29.5)

地域振興の方向性

- ・道路休憩施設を活用した産業振興及び地域振興
- ・日沿道延伸後の現道の駅「あつみ」しゃりんの利活用
- ・鼠ヶ関地域に観光客を呼び込むための環境整備



新道の駅売上
2017(H29) : 350百万
⇒2028 : 500百万



鼠ヶ関地内の観光客数
2017(H29) : 33千人⇒2028 : 90千人

具体的方策

新「道の駅」運営関連育成事業

しゃりんの経営分析・評価により、更なる経営の安定化を目指すとともに、新「道の駅」の運営の中心的人材の育成を図る。

2019(H31)～2020 : 経営分析・評価
2021～2022 : 外部研修派遣

はなさき路の賑わいづくり事業

みなとオアシス周辺の観光スポットや環境を整備し、鼠ヶ関地域への誘客を図る。

2019(H31)～2020 : 専門家等を活用したワークショップの開催
2020 : 公衆トイレの再整備、案内看板等の設置等
2021 : はなさき路再生計画策定

道の駅「あつみ」しゃりん整備事業

日沿道延伸後の運営形態に合わせた施設整備(体験交流の拠点、RVパーク、磯釣りの拠点等)

2019(H31) : しゃりん利活用検討会議(庁内)
2020～ : しゃりん利活用検討委員会(外部)
2022～ : 施設整備

目標

現状と課題

- 新「道の駅」の運営ノウハウを持った人がいない
- 経営能力、マーケティング能力のある人材不足
- 観光、経済の総合プロデュースが必要



事業目的

- 実践的な経営能力やマーケティング能力の習得
- 新施設に入る各種団体との調整
- 施設の運営などに対する明確な目標の設定
- 地元産品の販売促進及び調整

鼠ヶ関ICの利用客の増加
新道の駅利用客の増



販売額の増
鼠ヶ関周辺観光客の増加
地場産品の増

魅力的な「道の駅」として注目を浴び、
更に利用者が増えることが期待できる



事業内容

【しゃりん経営戦略の検証】
【職員の資質向上に向けた研修等】 2019 (H31)年度



• 新施設への円滑な移行

【外部研修派遣】 2021~2022年度



• 経営能力、マーケティング能力の習得

事業効果

- 各種団体との調整をすることでスムーズな運営
- 施設の機能的な配置や陳列状況などの助言提言
- 明確な運営目標が設定⇒各団体のモチベーションの継続
- 地元の食材や特産品などの販売⇒地域振興
- 新規雇用の創出



§ 2.日沿道延伸を活かした鼠ヶ関周辺地域の活性化

◆ はなさき路の賑わいづくり事業 ◆

現状と課題

- ・旅館、民宿の減少
- ・浜茶屋など施設の老朽化
- ・危険な遊歩道
- ・案内板の不足
- ・トイレが古く老朽化
- ・恋する灯台の活用不足

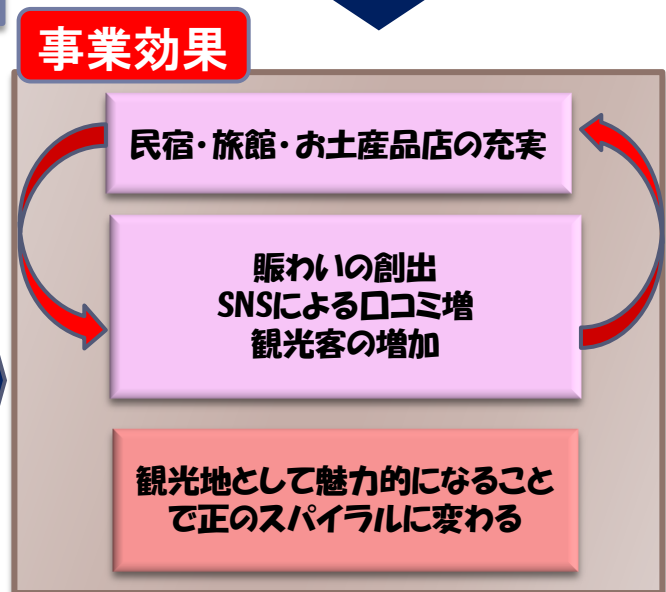
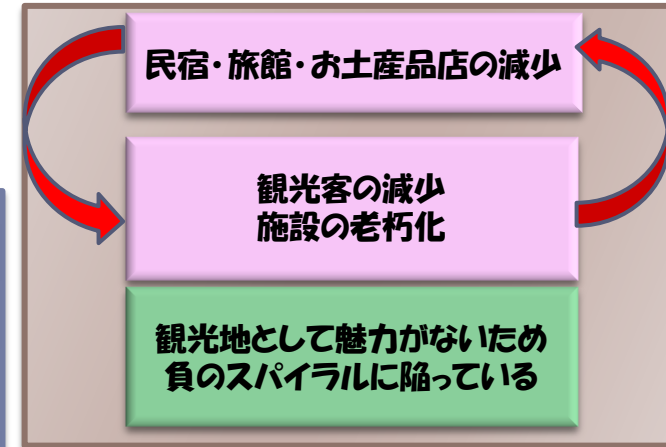


事業目的

- ・専門家、有識者を活用した地元協議検討
- ・トイレ、浜茶屋の整備
- ・危険な遊歩道の整備
- ・観光客にわかりやすい案内板の設置
- ・「恋する灯台」の有効活用
- ・インスタ映えスポット整備

事業内容

- ▶ 2019 (H31)~2020年度 計画策定
 2019 (H31) 年度<ワークショップ等の開催>
 ・講師謝礼、費用弁償 200千円
 ・観光戦略の策定を目指す
- ▶ 2020年度~ 施設整備
 Ex.<浜茶屋周辺施設(公衆トイレ)の再整備> <案内看板設置、「恋する灯台」
 「巖島神社」の活用><「恋する灯台」でインスタ映えスポット整備>等
 ・魅力的な観光地になる



§ 3.自然・歴史・文化を活かした交流人口・関係人口の拡大

◆ あつみ体験旅行推進事業 ◆

現状・課題

- ・観光客の減少（入込客数 H1 約34万人⇒H29 約18万人）
- ・人口減少や高齢化により社会基盤の脆弱化
- ・修学旅行等で「自然体験」を組み込む学校増
- ・インバウンド促進に向けた情報の発信と受入体制不足
- ・農家民泊のニーズが高いが、受入体制が整っていない

事業目的

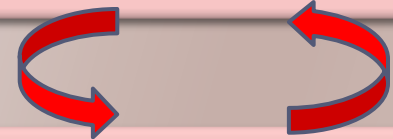
- ・地域内の宿泊施設（農泊・民泊含む）の整備支援
- ・商店、個人などの売上や収入増加を図る
- ・体験交流事業の拡大による交流人口の増加を図る
- ・体験型メニューの磨き上げや掘り起こし
- ・各主体団体間の連携強化を図る
- ・NEALリーダーの研修やスキルアップを通じ人材育成を図る



(株)フォワードさんぜとの連携

旧山北町内の体験施設との連携

温海地域への滞在時間の増
温海地域の魅力の発信



宿泊施設の収益増加
商店の収益の増
新たな魅力発見・発信

地元指導員の所得向上
地元商店等の活性化

事業効果

- ・周辺地域への取組の波及
- ・着地型ツーリズムが可能な地域
- ・滞在時間が増え、消費行動が増える
- ・宿泊施設、小売店、などの収益増加
- ・指導員の個人所得が増加
- ・体験受入団体の収入の増加
- ・地域の活性化

事業内容

ONPO法人自然体験温海コーディネットへの支援 [2019(H31)~2021年度]
【2019(H31) 補助金 2,677千円】

- ・NPOが配置する「観光コーディネーター」育成支援
- ・教育旅行並びにその他団体、個人客の誘致活動支援
- ・NEALリーダーのスキルアップ支援
- ・販売促進活動支援

○農泊受入者への施設改修支援 [2021年度]

- ・台所、トイレ、寝室等の改修に対する補助支援

※NEALリーダー：自然体験活動指導者（現在約62名）

あつみ体験旅行推進事業

【平成30年度 事業展開状況】

教育旅行



- ・東北教育旅行セミナー参加
旅行会社、学校関係者との相談会
(函館市・苫小牧市・札幌市)
- ・旅行代理店営業活動 (札幌市・仙台市)
- ・山形県教育旅行誘致協議会との連携

受入実績 3校 (677名)

(平成30年12月末現在)

- ・宮城教育大学附属中学校 155名 (旅館泊)
- ・札幌市立西陵中学校 150名 (旅館泊)
- ・山形大学附属中学校 34名 (日帰り)

その他団体・個人



- ・イベント実施
温海モリウミ体験フェス (海) 74名
温海モリウミ体験フェス (森) 57名

- ・他団体事業をコーディネート
辻調理師専門学校 フィールドスタディプログラム
温海中学校 関川地域学習
恋する灯台物語 IN NEZUGASEKI (地域振興課)
恋する灯台ツアー in 鼠ヶ関

受入実績 1,130名

(平成30年12月末現在)

共通事項



- ・指導員研修実施
- ・体験メニューの開発
- ・体験メニューの検証
- ・救急資格講習の実施

インバウンド受入実績

【イタリア】 イタリア食科学大学・大学院フィールドスタディ
【スペイン】 料理人研修 (GEN)
【モルドバ】 オリンピック協会体験
【シンガポール】 テマセクポリテクニク研修
【台湾】 温海でユキアソビ (旅館との連携企画)
【タイ】
その他ツアー、個人の受入れあり
平成28年度からの受入総数 372名

地域初となる宿泊を伴う教育旅行を2校受入。他団体事業のコーディネートも実施。

§ 3. 自然・歴史・文化を活かした交流人口・関係人口の拡大

◆ 温海地域支援ネットワーク推進事業 ◆

(強)

現状の地域との関わり

(弱)

「交流人口」

「関係人口」

「定住人口」

関係案内所

温海地域以外の場所で、
関係人口と温海地域とを繋ぐ窓口として機能
☆首都圏での意見交換会、温海地域体験ツアーの企画・参加など

他の
事業・機関

鶴岡アンバサダー(16名、内温海出身者1名)
鶴岡ふるさと観光大使(34名、内温海出身者1名)
鶴岡市東京事務所、マイプロ、現地の大学や企業 等

連携 →
温海地域外に住む既存関係人口

行き来する者「風の人」

小国ふるさとふれあい村利用者
(BMW愛好者100名、日大天文研50名)
温海トライアスロン参加者(10名)
鹿児島県の大隅あつみ会等(24名)等

地域内にルーツ
がある者(近居)

温海出身で温海地
域以外で暮らす者
等

何らかの関わりがある者
(過去の勤務や居住、滞在等)

しな織研修生OB(15名)
地域おこし協力隊OB(3名)等

地域内にルーツ
がある者(遠居)

ふるさと温海会(183名)

ほとんど関わり
がない者

どこか居心地の良い
ふるさとと繋がりたい

温海地域外に住む新規関係人口 (可能性)

地域づくりに参画
呼びかけ・仲間として受入

地域との関わりへの想い

(弱)

(強)

定住者

住民

温海地域の自治会・住民

問題・需要

- 伝統文化継承への支援
(お祭りの参加者、伝統工芸の後継者等)
 - 産業振興への支援
(特産物販売等)
 - 日常生活への支援
(雪下ろし、買い物への支援等) など
- 関係人口受入れのためにできること
☆ 空き家を滞在用に活用
☆ 積極的な情報発信 など

情報提供・需要調査

温海庁舎・地域内検討会議

取材・
関係人口との
マッチング

委託・
報告

中間支援団体

プラットフォーム

- ☆ WEBサイト ☆ SNS ☆メルマガ
 - ☆ 広報紙
- ※ 地域の課題 (関係人口受入れ要請)、
関係人口の活動、関連イベント等の情報
を発信・受信する環境として整備

自治会と関係人口とのつなぎ役

- ☆ 首都圏での意見交換会

例えば… (イメージ)

- 地域の祭典の御神輿担ぎ手がない…
⇒ トライアスロン参加者の参加により盛大に神輿渡御
- 自分の故郷に経済的な貢献がしたい…
⇒ 温海地域体験ツアーを実施し故郷を満喫

現状と課題

人口・世帯数の減少 (H2 48世帯206人 ⇒ H27 41世帯139人)
 しな織の売上の減少 (H18 24,279千円 ⇒ H29 18,602千円)
 しな織センター入館数の減少 (H18 8,300人 ⇒ H29 2,900人)
 しな織従事者の高齢化及び原材料不足による生産量の減少

環境の変化

- ・ **しな織センターの新築 (H29)**
 ▶ 老朽化したしな織センターの改築
- ・ **しなの花の活用**
 ▶ 未利用資源を活用した新商品 (石鹸、化粧品) の開発
 ※30年度末販売予定

地域振興の方向性

- 関川地区活性化計画の目標達成
 ▶ イベント回数の増による交流人口の拡大
 ▶ しな織商品の販売額アップ
- 新商品販売による地域活性化
 ▶ 所得の向上及び雇用の確保

3本の柱

交流人口の拡大

関川地区活性化計画推進事業

▶ 関川地域活性化イベント「田舎のうまいもん食堂」(の開催支援)

しな織販売額のアップ

糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業

▶ サムライシルクとのコラボ製品の開発研究

新たな特産物で地域振興

しなの花活用プロジェクト事業

▶ しなの花の成分を活かした石鹸、化粧品販売に対する支援 (PR、新商品開発)



目標 交流人口2013(H25) : 3,755人 ⇒ 2020 : 6,800人 しな織の売上2013(H25) : 22,471千円 ⇒ 2020 : 26,200千円

§ 3.自然・歴史・文化を活かした交流人口・関係人口の拡大

◆ 関川地区活性化計画推進事業 ◆

現状・課題

- しな織後継者の高齢化と原材料不足により、しな織の生産量の減少
- 関川しな織協同組合は経済的に非常に脆弱
- 「関川地区活性化計画」の取組の推進
- 国の交付金を活用して建設した「しな織センター」の活用



事業目的

関川地区活性化計画の指標

- 交流人口の拡大
- 地域産物(しな織関係)の販売額の増加
- イベントの開催回数の増加



事業内容

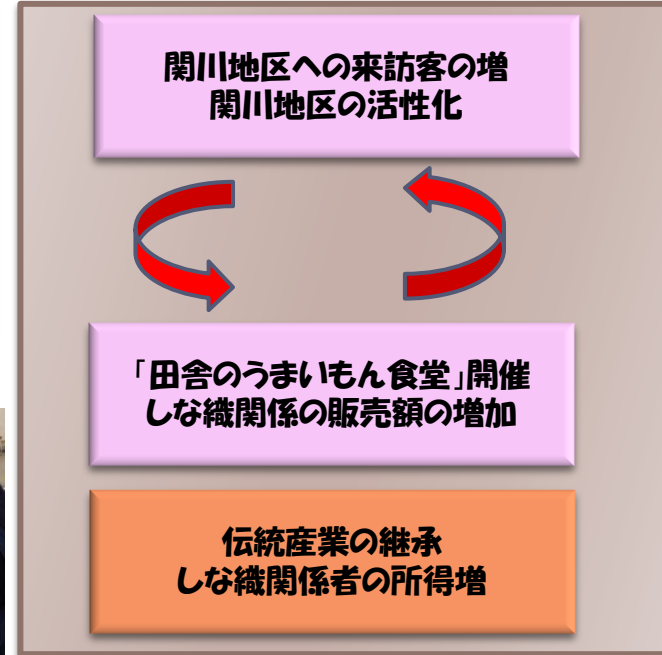
- 関川しな織協同組合及び関川自治会等が連携して取り組む「しな織」と「地域の伝統食」をテーマとした地域活性化イベントの開催に対して支援する。

2019(H31)年度 補助金 3000千円



事業効果

- イベント回数増⇒交流人口の拡大
- しな織の魅力発信
- 関川地区活性化計画の指標の達成
- 関川しな織協同組合の経営安定
- 地域の活性化



§ 4. 農林水産資源のブランド化

◆ 糸の文化で新たな価値創造プロジェクト事業 ◆

現状・課題

- ・しな織の産地規模が小さいため将来に不安
- ・単独での開発に限界がある
- ・サムライシルクのコラボ開発に期待

これまでの取組

- ・首都圏等におけるイベントでの販売およびPR活動
- ・後継者育成事業として糸づくり講習会の開催
- ・長期研修生を活用した後継者育成

成果不足

有効手段の可能性

- ・「しな織」と「サムライシルク」のコラボ製品の開発
- ・「しな織」の価値観を高める
- ・「サムライシルク」の新たな発展の可能性

事業の目的

事業内容

鶴岡市にある「しな織」「サムライシルク」の糸（素材）を活用したコラボ製品の開発に取り組む。

- 2019(H31)年度 研究開発補助 1,000千円
- ・「しな織」と「サムライシルク」のコラボ製品の開発研究
- 2020年度
- ・「しな織」と新たな素材との組み合わせの研究

事業効果

- ・しな織の新たな価値の創造
- ・新商品の開発⇒関係者の所得増
- ・サムライシルクの新たな可能性の発見
- ・原材料代金の増加

しな織後継者の増
原材料の安定確保

しな織関係者の所得増
安定的な就労確保

しな織の発展
サムライシルクの新たな発展



§ 4.農林水産資源のブランド化

◆ しなの花活用プロジェクト事業 ◆

現状・課題

- ・人口減少と少子高齢化による地域の衰退
- ・「羽越しな布」の後継者不足
- ・資源（しなの花、木、実）の未利用

事業の目的

- ・未利用資源を活用した事業による地域活性化
- ・就業形態の確立による定住環境の整備
- ・しなの木をフル活用した地域の絆の醸成

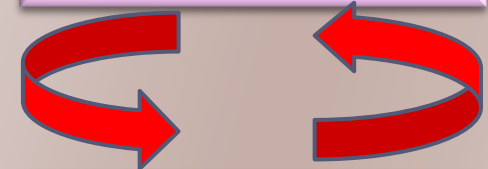
事業内容

- 2019(H31)年度 補助金100千円
 - ・販売PRのホームページの作成補助
- 2020年度～
 - ・しなの花、実、木の新品研究開発

事業効果

- ・新たな価値の創造
- ・新たな雇用の創出
- ・地域経済の活性化

しな織関係者の増
地域の活性化



新商品の開発
安定的な就労確保

しな織の発展
新たな資源の開発



現状・課題

農業従事者の高齢化 (70歳以上就業人口割合: 全市39.7%、温海53.4%)

鳥獣被害の増大(特にさる被害)

少ロット農産物生産

農家戸数の減少(全市 H17 6,428戸⇒H27 4,972戸、温海 H17 612戸⇒H27 436戸)

在来作物の生産振興による農家所得の拡大

耕作地の減少(全市 H17 25,736a⇒H27 23,755a、温海 H17 4,890a⇒H27 3,604a)

産直グループの組織力低下

対策・取組

担い手対策

あつみ農業「ビジョン2025」

○10年後を見据えた、現実的な目標設定による担い手対策

- ・既存農地を守る
- ①文化としての農業 (小規模・生きがい・趣味)
- ②職業農家数の倍増
- ③集落農業法人の育成
- ・休耕田⇒あつみ農地保全組合

目標

10年後の農地面積: 540ha

- ①自給的農家: 108ha
- ②8ha以上の経営体を12名
- ③30ha法人を5法人

合計: 398ha
残り: あつみ農地保全組合

少ロット農産物生産農家の営農支援

鳥獣被害防止対策モデル事業

- 高齢農業者の生産意欲の向上と地産地消の推進
- ・猿被害軽減比較調査事業
- ・忌避作物(青唐辛子など)作付による比較調査・検証
- ・忌避作物栽培支援事業 忌避作物の種苗購入補助

小ロット農産物集荷システム整備事業

- 高齢農業者の所得の向上と生きがいづくり、道の駅利用者の満足度向上
- ・集荷、仕分け作業に係る人件費補助
- ・森の産直力一整備補助

産直組織活動基盤強化事業

- 産直施設や学校給食への安定供給と地産地消の推進
- ・産直組織一本化に向けた協議会の設置、検討
- ・組織運営、栽培講習会の開催
- ・先進地視察の実施

目標

しゃりん農産物売上
4,916千円⇒6,000千円(2021)

学校給食の鶴岡産農産物利用割合 30.1%⇒50%(2022)

在来作物の更なるブランド化

温海地域在来作物振興事業

- 在来作物の安定した生産体制の整備と作付面積拡大、認知度の向上
- ・焼畑あつみかぶ: G I 登録時の支援と登録後の更なるPR
- ・越沢三角そば: そば文化継承支援

目標

焼畑あつみかぶ販売単価
209円⇒230円(2021)

越沢三角そば栽培面積
25,160㎡⇒60,000㎡(2021)

効果

- ・農産物の生産、販売量の増加
- ・地産地消の推進
- ・高齢農業者の所得向上、生きがいづくり

将来目標

～ 新道の駅(鼠ヶ関IC周辺)での魅力ある温海地域農産物販売 ～

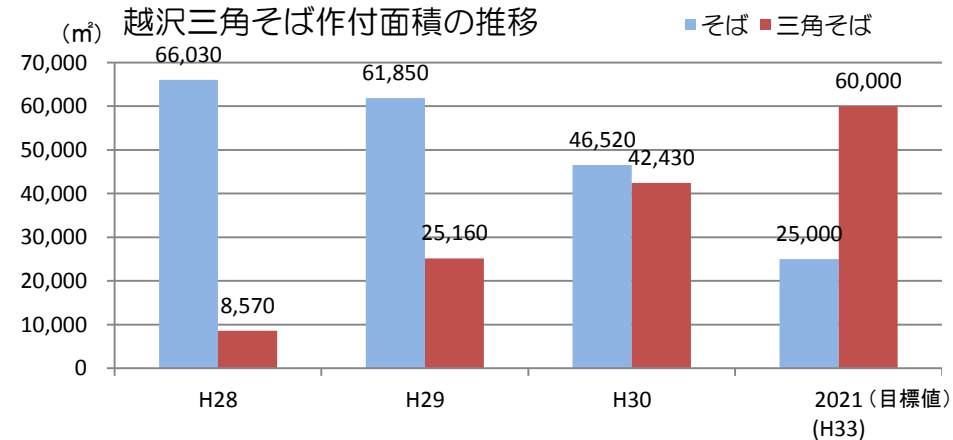
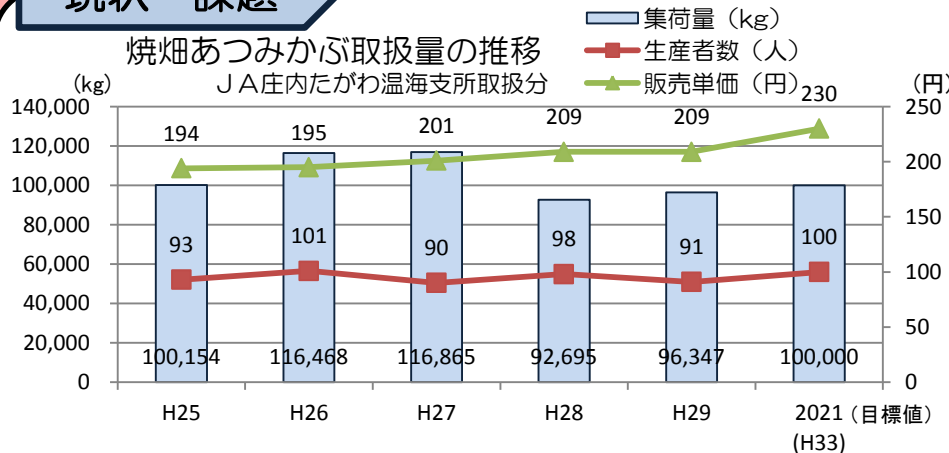
§ 4. 農林水産資源のブランド化

◆ 温海地域在来作物振興事業(焼畑あつみかぶ、越沢三角そば) ◆

焼畑あつみかぶ

越沢三角そば

現状・課題



地域外への
更なる認知度の向上

地理的表示保護制度
(GI制度)への登録

作付面積の拡大
安定的な生産体制の構築

打ち手の育成等、技の伝授
地域に伝わるそば文化継承

対策・取組

取組み団体等への補助金による支援 2019(H31)~2020年度

- 対象団体：焼畑温海かぶブランド力向上対策協議会
- ・GI登録時における支援
 - ・登録後の更なるPR活動
 - ・おいしさや焼畑文化等、物語性のある販促ツールの作成
- 2019(H31)年度：1,300千円

- 対象団体：まよのやかた越沢三角そば生産組合
- ・生産技術の向上
 - ・そばを活用した加工品、体験メニューの開発
 - ・打ち手の育成や技の伝授
- 2019(H31)：50千円

将来目標

地域農産物のイメージアップ、販売量の増加

生産者の所得向上、温海地域の活性化

焼畑あつみかぶの販売単価
2017(H29)年：209円/kg → 2021年：230円/kg

越沢三角そばの栽培面積
2017(H29)年：25,160m² → 2021年：60,000m²

§ 4.農林水産資源のブランド化

◆ 小ロット農産物集荷システム整備事業 ◆

温海地域農業の現状

- 農家数の減少 (H17⇒H27)
(全市 6,428戸⇒4,972戸、温海612戸⇒436戸)
- 高齢化の進行
(70歳以上就業人口割合: 全市39.7%、温海53.4%)
- しゃりん「旬菜市」の農産物売上 (H26⇒H29(2017))
(5,765,188円⇒4,916,462円)
※2021年 目標6,000,000円
- しゃりん「旬菜市」の会員数
(会員総数108名、内H29年自己出荷農家数48名)

温海地域の農業の課題

- 温海地域の小ロット農産物の出荷先は道の駅「しゃりん」が主である。
- 「しゃりん」に自己出荷できない高齢農家が増加している。
- 農産物の集荷や地域内外での販売で利用する森の産直カーが限界である。

集荷、仕分け作業に係る人件費補助

2019(H31)~2020年度

- 道の駅「しゃりん」が実施する農産物集荷事業への人件費補助
2019(H31)年度 補助金 190千円

森の産直カー整備補助

2019(H31)年度

- 道の駅「しゃりん」が実施する森の産直カー整備費の3分の1を予算の範囲内で補助
2019(H31)年度 補助金 883千円

自己出荷できない高齢農家の出荷方法や産直カー更新の検討・検証

目標・効果

- 高齢農業者の所得の向上 (生産量の拡大)
- 生きがいづくり(生産意欲の向上)
- 道の駅利用者の満足度向上(目標の達成)
- 産直施設の販売量拡大(新道の駅での販売)

§ 4.農林水産資源のブランド化

◆ 鳥獣被害防止対策モデル事業 ◆

温海地域農業の現状

- 農家数の減少 (H17⇒H27)
(全市 6,428戸⇒4,972戸、温海612戸⇒436戸)
- 高齢化の進行
(70歳以上就業人口割合: 全市39.7%、温海53.4%)
- 耕作放棄地の拡大 (H22⇒H27)
(全市 620ha⇒680ha、温海 184ha⇒178ha)
- 学校給食食材地元産使用率 (H25⇒H29) ※目標50%
(全市 29.4%⇒34.1%、温海 30.9%⇒37.7%)

鶴岡市の中でも特に中山間地域の温海地域はサル被害が多く、農家の生産意欲の減退及び離農(耕作放棄地の拡大)につながる深刻な問題である。

これまでの鳥獣被害防止対策

電気柵の設置や追い払い隊などの地域活動に対する県及び市補助を活用しているが、小ロット農産物生産の高齢農家には費用負担が大きい。(電気柵:約6万円、爆音機:約4万円)

有害鳥獣被害軽減モデル事業 (ハード支援: 県市補助)

鳥獣被害防止地域活動支援事業 (市補助)

有害鳥獣対策事業 (市)

猿被害軽減比較調査事業

- 2019(H31)年度
 - 忌避作物栽培圃場の被害軽減調査を法人へ業務委託 402千円
 - サルの行動監視用センサーカメラの購入 69千円
- 2020年度
 - 忌避作物栽培圃場の被害軽減調査を法人へ業務委託

鳥獣忌避作物栽培支援事業

- 2020~2022年度
 - 忌避作物菜苗購入費にかかる経費の2分の1を予算の範囲内で作付農家又は生産組合に補助

高齢農家でも取り組める
鳥獣被害防止対策の検討・検証

目標・効果

- 生産意欲の向上(高齢者の生きがいづくり)
- 生産量の拡大(所得の向上)
- 学校給食食材の確保(目標の達成)
- 産直施設の販売量拡大(新道の駅での販売)

§ 4.農林水産資源のブランド化

◆ 産直組織活動基盤強化事業 ◆

温海地域農業の現状

- 農家数の減少 (H17⇒H27)
(全市 6,428戸⇒4,972戸、温海612戸⇒436戸)
- 高齢化の進行
(70歳以上就業人口割合: 全市39.7%、温海53.4%)
- しゃりん「旬菜市」の農産物売上 (H26⇒H29(2017))
(5,765,188円⇒4,916,462円)
※2021年 目標6,000,000円
- 学校給食食材地元産使用率 (H25⇒H29) ※目標50%
(全市 29.4%⇒34.1%、温海 30.9%⇒37.7%)
- 主な産直組織
「旬菜市」「天パク会」「んめっちゃ市」「青空市」

温海地域の農業の課題

複数ある産直組織の加入者の高齢化や重複しての加入により会員数が減少している。

学校給食のニーズに合わせて提供できる農産物の品数や数量が少ない。

産直組織の活動が限定的であり、運営できる人材育成が必要である。

産直組織強化に向けた取り組み

- 2019(H31)～2021年度
産直組織の一本化に向けた、組織強化事業の実施
- 産直一本化検討会の開催 (年4回)
- 運営強化研修会の開催 (年1回)
- 農作物栽培講習会の開催 (年2回)
- 先進地研修視察の開催 (年1回)

2019(H31年度) : 101千円

産直グループの組織力強化や
人材育成の検討・検証

目標・効果

地産地消率の向上(生産量の拡大)
 提供できる農産物の増加(安定供給)
 組織を運営できる人材の育成(組織強化)
 産直施設の販売量拡大(新道の駅での販売)

§ 5.次代を見据えた自治機能とコミュニティ拠点の機能強化

◆ ICTを活用した地域課題解決事業 ◆

➤ 温海地域の有線放送等の現状

【自治会有線放送】

自治会公民館から、集落各戸の受信機を専用の有線でつなぎ、公民館等の放送設備から音声放送を行っている。(一方向)

【防災行政無線】

本所及び庁舎の送信設備からデジタル無線で、屋外放送塔、自治会公民館をつなぎ、自治会有線放送設備により各戸に音声放送を行っている。(一方向)

【移動系防災行政無線】

庁舎及び各自治会等にハンディタイプのIP無線機を配置し、非常時の連絡を行う。(双方向)



➤ 有線放送の重要な役割

温海地域では、自治会ごとに有線放送施設等を整備し集落内の情報伝達手段とされ、防災上重要な役割を担っており、市の防災行政無線とも関係されており、地域住民の安全・安心な暮らしを支える基盤設備となっている。

➤ 集落自治会の脆弱化

各自治会では、高齢化、人口減少によりその組織力、財政力の脆弱化が懸念される状況にあり、今後各自治会が自前の有線放送設備を更新し、維持管理していくことが困難となることも想定される。自治会長会から施設整備に対する要望書出される。

➤ 少子高齢化・人口減少の地域課題

温海地域の地理的条件から、日常生活を支える環境～公共交通などの移手段の確保、買い物、医療など生活サービス水準の確保が、少子高齢化・人口減少対策として喫緊の課題となっている。

➤ 施設設備の老朽化

有線放送設備は、行政からの補助を受けながら通信線の敷設を含め各自治会が自前で整備し、自治会費等で維持管理費を賄っているが、老朽化など施設設備の更新が課題となっている。

➤ 有線放送の代替手段となる仕組みの調査研究

現在では温海地域の大部分のエリアで、有線放送敷設時とは比較にならない通信環境の充実が図られており光ファイバーを介した各通信事業者によるブロードバンドネットワークが利用可能な状況となっている。
ブロードバンドを活用したICTの進展は、アプリケーションソフトにより様々なサービスを提供することが可能となってきている。
ICTを活用して地域課題解決に取り組んでいる県内外の先進事例の調査・情報収集、財源の調査検討を行うとともに、学識経験者を含む研究会を立ち上げ有効性や課題を整理し、温海地域にあった有線放送設備に代わる新たな情報伝達システムの調査研究を行う。

既設のブロードバンドネットワークをプラットフォームとして、ICTを活用したこれまでの有線放送の機能を包含し、地域生活サービスをサポートする機能を統合可能な情報伝達システム

- ・有線放送代替サービス（音声・文字・画像等）
- ・防災情報サービス
- ・買い物支援サービス 順次サービス機能の追加

まちづくり未来アツ!

§ 6.海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

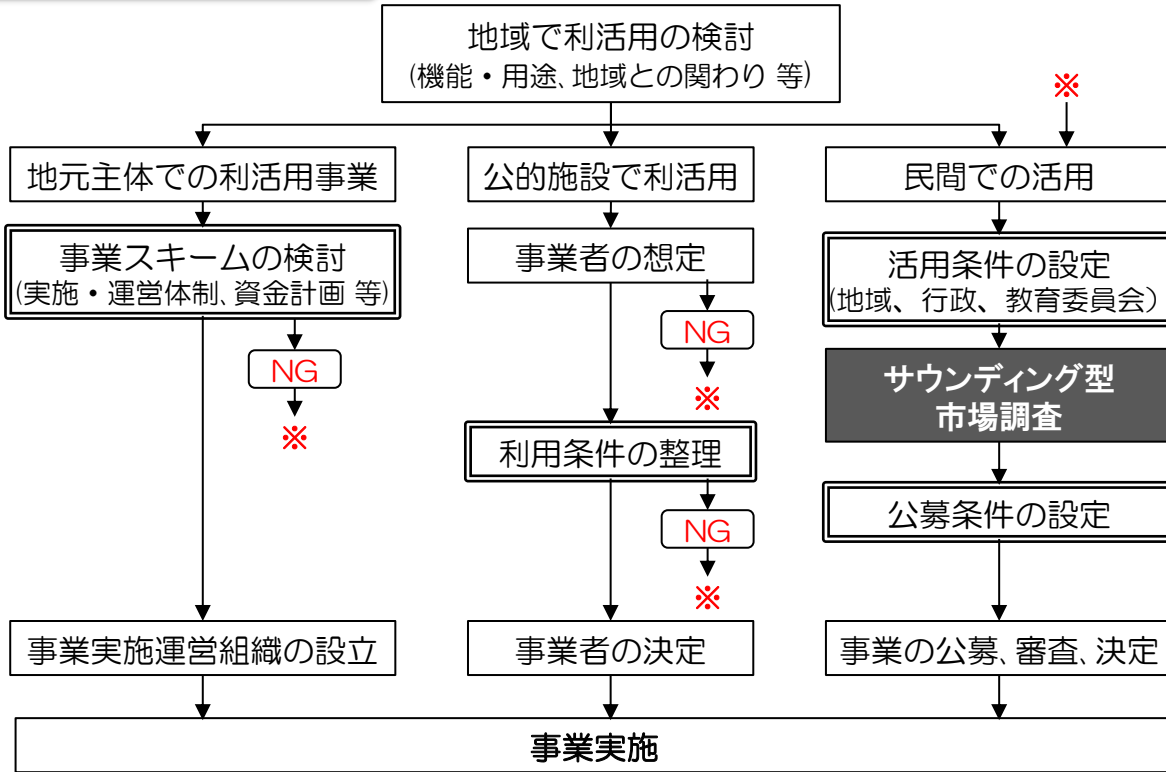
◆ 遊休資産等利活用に向けた市場調査事業 ◆

- 温海地域の小学校の統廃合に伴い、山戸小学校、五十川小学校、福栄小学校が遊休資産となった。
- 統合準備委員会で閉校後の校舎等の検討も行われたが、現在一部の活用にとどまっている。
 - 山戸小学校 ⇒ 体育館を地域体育施設として利用
 - 五十川小学校 ⇒ 体育館を地域体育施設として利用、校舎の一部をサービスセンターとして利用
 - 福栄小学校 ⇒ 校舎の一部を養蚕施設として利用

地域での利活用の課題 「担い手(プレーヤー)がない」、「資金がない」

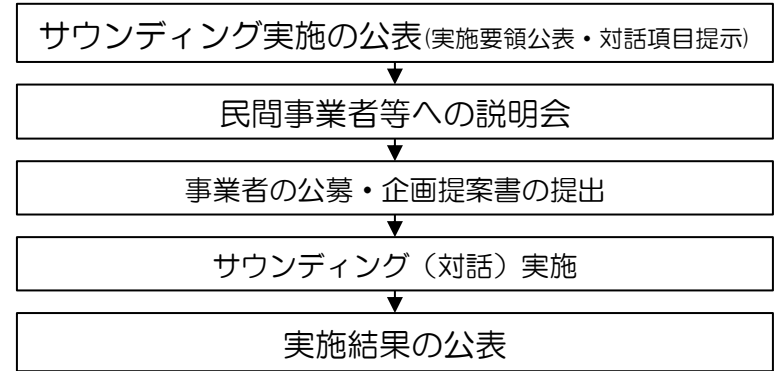
利活用の検討フロー

☐: 行政による経済的支援の検討



サウンディング型市場調査

サウンディング型市場調査とは、市有地などの有効活用に向けた検討にあたって、活用方法について民間事業者から広く意見、提案を求め、「対話」を通じて市場性等を把握する調査



旧上郷(つくば市)高校跡地

12事業者から対話の申込
「事業者主体型」「事業支援型」「その他」に分類し、活用アイデアの分析と課題の整理を実施 (結果概要より)

旧酒田商業高校跡地

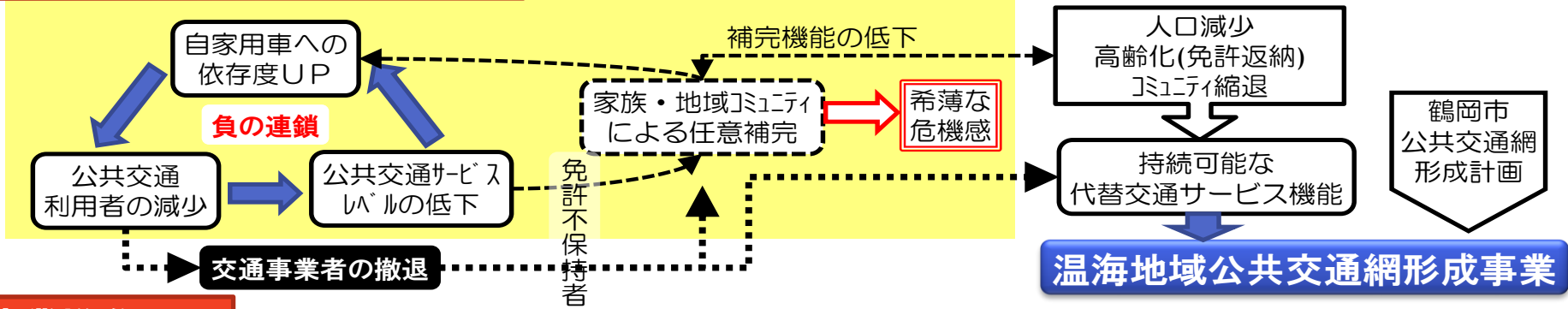
4事業者から対話の申込
「産直施設」「複合商業施設」「屋内型歴史資料館」「スポーツ施設」等のアイデア有。3社は可能性なし。1社は可能性があるが改修に多大な費用が掛かる場合は要検討。(結果概要より)

利活用の成功要因

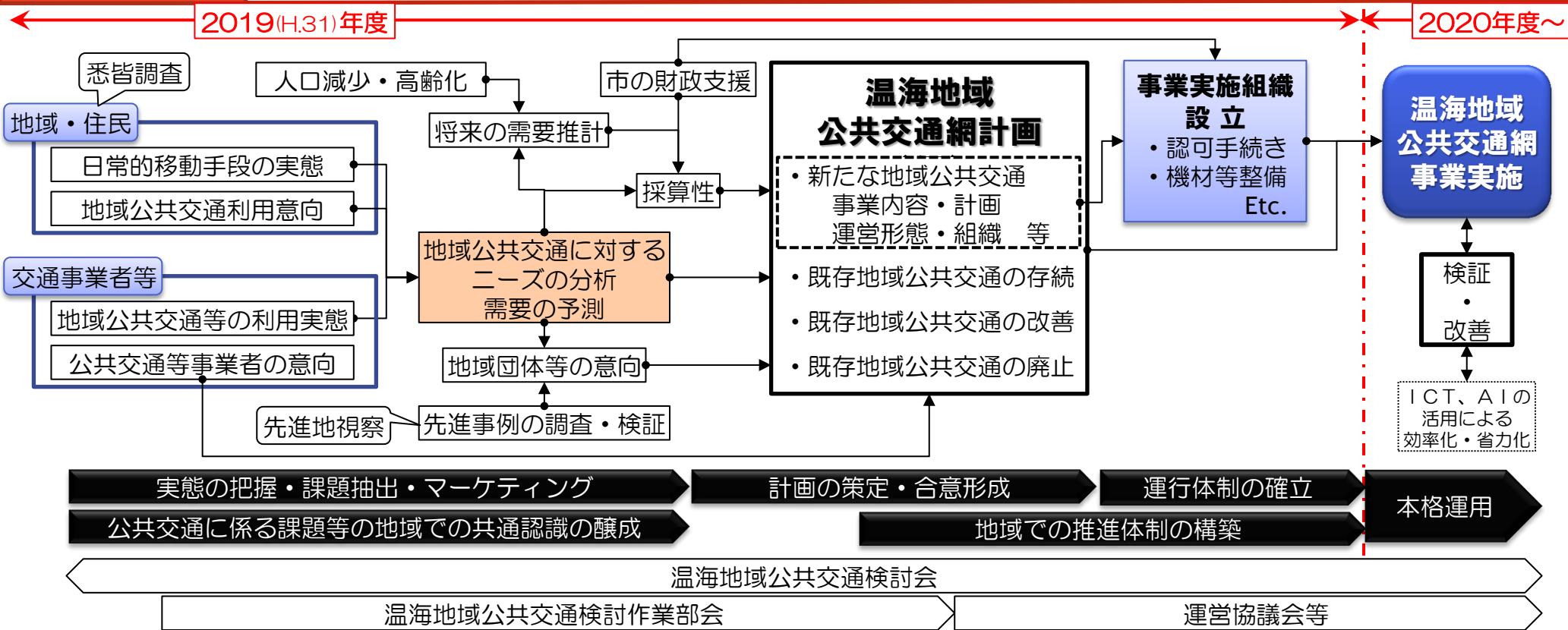
波井石誠 著「廃校の民活用と地域活性化」

- ①自治体による早期の取組み
- ②地域住民の理解
- ③明確な事業理念の確立
- ④適切なビジネス手法の設定
- ⑤廃校活用に関する経済的支援

温海地域の公共交通の現状・課題



事業推進フロー



§ 6.海・山・自然豊かに暮らし続けられる環境整備

◆ 高等学校等生徒通学費支援事業 ◆

制度の趣旨

過疎・中山間地域である朝日・温海地域の定住支援策として、遠隔地に居住し負担が大きい地域の高校生の通学費に支援を行うことで負担の平準化を図るとともに、減少傾向が続くバス路線等維持のための利用拡大を進める。また、市街地における朝夕の交通渋滞の緩和や、家族送迎に係る負担の軽減を図る。

制度の概要

公共交通機関(朝日地域：バス、温海地域：バス・JR)を利用する地域内の高校生等を対象とし、定期券購入者に対して月額5,000円(年間60,000円)を自己負担上限として補助する。

公共交通機関での乗り継ぎ(バス→JR等)が時刻表上不可能な地域は、通学可能な最寄駅等までの移動手段として家族等の自家用車送迎を特例として認め、片道2km以上の場合を補助対象とする。



補助の例

最寄駅及びバス停から高校までの定期料金について、JRが設定する旅客通学定期(6ヶ月期限×2期分)又は庄内交通が設定するキャンパスパスポート旅客運賃表(キャンパス通学定期1年)を補助対象事業費上限として、自己負担(年間60,000円)を超えた金額を補助する。前述した特例の自家用車送迎は、1kmあたり29円で計算する。(1ヶ月当たり20日限度)

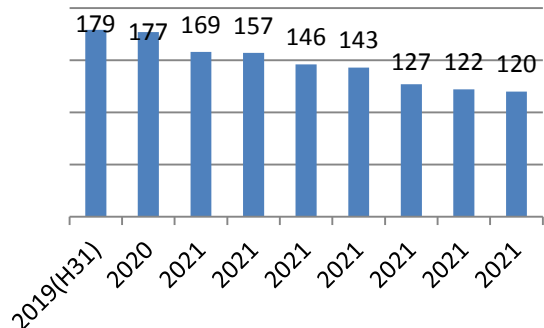
例：一霞～鶴岡駅(JR+自家用車利用)※バス+JR接続不可能

- ①一霞～あつみ温泉駅 自家用車
往復13km×20日(1月)×12月×29円=90,480円
- ②あつみ温泉駅～鶴岡駅 JR旅客通学定期(6ヶ月)
41,460円×2期=82,920円
- ①、②計(補助基準額) 173,400円

自己負担 60,000円
市補助 113,400円

高校生の推移(見込み)

「H28地区別児童生徒数」より推計



本制度により公共交通機関利用者増を見込む

2019(H31)年度=利用率45%
⇒101名
補助金6,916千円

2020年度=利用率46%⇒100名
2021年度=利用率47%⇒92名

補助イメージ

- 木野俣Aさん
路線バス利用
- 五十川Bさん
JR利用
- 山五十川Cさん
家族送迎+JR利用

